

平成29年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	29-事後-1						
課題名	きぬむすめ、にこまるの高品質生産技術の確立と温暖化対応品種の選定						
課題の概要	「ヒノヒカリ」に代わる有望品種「きぬむすめ」、「にこまる」について、高品質・良食味米生産が可能となる技術を確認する。また、各地帯別に高温登熟耐性に優れた品種を選定する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	3人	2人	人	人	3.8
	有効性(効果)	1人	3人	2人	人	人	3.8
	有効性(目的以外の成果)	2人	1人	3人	人	人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	2人	3人	1人	人	人	4.2
	効率性・妥当性(計画)	1人	2人	3人	人	人	3.7
	成果の活用・発展性	2人	3人	1人	人	人	4.2
	総合評価	2人	3人	1人	人	人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. 近年の高温による米の品質低下の問題解決に答えるニーズに沿った課題である。3年間で得られた成果は優れており、普及の可能性が高く、総合的にみて十分な成果が得られたと評価する。</p> <p>2. 特Aを取得した高い評価の「きぬむすめ」において、出穂期以降の温度条件等々を解明し、中北部が作付敵地であることを解明した点は大きい。</p> <p>3. 農業を取り巻く諸課題を考えると生産性の向上と気象変動対策は重要テーマであり、この成果を広く普及させるとともに、研究をより深く発展させていただきたい。</p> <p>4. 高品質・良食味の省力技術を乾田直播、湛水直播、疎植栽培法で確立した「にこまる」についての今後を含め、南部での水稻栽培について次の研究機会があればお願いしたい。</p>						

番 号	29-事後-2						
課題名	マルチ栽培による「おかやま黒まめ」の高品質生産技術の確立						
課題の概要	大粒収量の向上や雑草防除の容易化が期待されるマルチ栽培について、その効果を明らかにするとともに、マルチ栽培に適した栽培・施肥技術を確立し、本県黒大豆の更なる高品質化と生産安定に資する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	人	3人	3人	人	人	3.5
	有効性（効果）	人	4人	2人	人	人	3.7
	有効性（目的以外の成果）	人	3人	3人	人	人	3.5
	効率性・妥当性（費用対効果）	人	3人	2人	1人	人	3.3
	効率性・妥当性（計画）	人	1人	5人	人	人	3.2
	成果の活用・発展性	人	3人	2人	1人	人	3.3
	総合評価	人	4人	2人	人	人	3.7
助言・指摘事項等	<p>1. 岡山県のブランディングを推進する課題であり、3年間で普及可能性の高い成果が得られており、総合的に十分な成果が得られたものと評価する。</p> <p>2. 本技術は、生産性の向上と農家所得の向上につながり、高く評価できる。本技術の導入により、栽培面積が増加し、岡山黒大豆の評価が高まることを期待する。</p> <p>3. マルチ栽培には初期の労力があるものの、全体の労力軽減に果たす役割は大きく、農家所得の向上に寄与する研究所の使命が果たせている。普及段階では、より簡便に導入できる手法の検討も必要と思われる。</p> <p>5. 本課題で残っているマルチ栽培による高温期における灌水方法について、引き続き行っている新規課題での取り組みに期待する。</p>						

番 号	29-事後-3						
課題名	気象変動に対応した春季のモモの樹勢衰弱・枯死回避技術の確立						
課題の概要	早春の凍害が原因と考えられる枝幹障害の凍害回避策及び耐凍性台木を利用した総合的な対策技術を確立する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性（効果）	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	有効性（目的以外の成果）	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性（費用対効果）	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性（計画）	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
	総合評価	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. 最近の気象変動で増加してきているモモの早春の凍害発生を防止するために必要な課題であり、十分な成果が得られた課題と評価する。</p> <p>2. 新たな台木と凍害防止資材の開発はいずれも実用的であり、大きな研究成果と評価できる。凍害防止材は他作物共通で市販化の可能性が高いといえる。</p> <p>3. モモの樹の損害は農家の経営収支を大きく左右し、冬季の衰弱・枯死被害の軽減により高品質のモモの生産量の増大が期待される。研究成果の早期の実用化と凍害防止資材のコスト低減を期待する。</p> <p>4. モモの、ブランディング化においても有力な研究であると思われる。</p>						

番号	29-事後-4						
課題名	個人消費のスタイルに即したブドウ生産技術の開発						
課題の概要	個人や市場の新たなニーズに応じて県産ブドウの需要拡大を図ることを目的に、高品質な「1人食べきりサイズ」の小房ブドウの生産技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	有効性(効果)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	有効性(目的以外の成果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(計画)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	成果の活用・発展性	2人	3人	1人	0人	0人	4.2
	総合評価	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1. 岡山県のブランディングを推進する課題であり、総合的にみて十分な成果が得られた課題と評価する。</p> <p>2. 着眼点が非常に独創的で、「岡山はここまでやるのか」と果物王国の「こだわり」をアピールできる技術開発である。実用化に向けて、栽培技術の平準化にも努めていただきたい。</p> <p>3. 新商材の提案による県産ブドウの消費拡大とブランド化の加速が期待される。</p> <p>4. 当初計画から変更して高品質化に絞り、実需者からも評価されている点に関して、かなり評価できる。ただし、量販店では価格が割高となるため、生産者、市場、実需者の関係者の今後の取り組みが重要となる。</p>						

番号	29-事後-5						
課題名	県産ぶどうにおける消費者ニーズと販売形態の方向						
課題の概要	「ピオーネ」に対する消費者、小売り業者のニーズを把握・分析し、新たな消費需要に対応した販売形態を明らかにする。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	0人	6人	0人	0人	3.0
	有効性(効果)	0人	2人	3人	1人	0人	3.2
	有効性(目的以外の成果)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	2人	3人	1人	0人	3.2
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	0人	3人	2人	1人	0人	3.3
	総合評価	0人	3人	2人	1人	0人	3.3
助言・指摘事項等	<p>1. 岡山県のブランディングを推進する課題であり、消費実態調査や消費者ニーズの解析を各種の方法で実施しており、信頼できる成果をあげている。</p> <p>2. 本研究成果を生産振興策、技術開発に活用し、新たな商品開発に発展させることを期待する。</p> <p>3. 定期的に類似の調査等を実施するとともに、今回提案した販売形態の適否をフォローアップする必要がある。</p> <p>4. ブランディング化を推進・維持するために、この解析結果を生かして具体的な技術移転、実用化を進めてほしい。</p> <p>5. 時代とともに変化する市場動向の随時把握は重要である。今後、今回の分析結果をより深く掘り下げ、また、新たな調査方法も検討し、大胆な振興策の打ち出しを期待する。</p>						

番号	29-事後-6						
課題名	ブドウ安定生産のための施肥方法の改善						
課題の概要	高品質な果実を安定生産するために、樹の生育と果実の成熟に合わせて、効率的に肥料成分を吸収させるための肥料の分施肥技術の確立を目指す。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	0人	平均点
	目標達成度	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性(効果)	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	有効性(目的以外の成果)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(計画)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	成果の活用・発展性	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
	総合評価	0人	6人	0人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1. 本課題を実施した意義を高く評価する。また、本成果により、これまで前例のない窒素肥効評価に基づく施肥指導が行え、ピオーネ以外のブドウ栽培にも応用できることから、大変優れた成果であると高く評価する。</p> <p>2. 弱勢樹に対する適性施肥管理法の開発について成果を評価できる。開発した専用ソフトを実際の施肥指導に活用し、安定生産につながることを期待する。</p> <p>3. 地域のブドウ栽培の実情に合わせて検証する姿勢は、固定観念にとらわれない、柔軟な発想に基づく「足で稼いだ研究成果」である。</p> <p>4. この技術が県南部や県中北部、様々な品種に応用できると期待しており、岡山県のあるべき姿(高品質生産)に寄与すると確信している。</p>						

番号	29-事後-7						
課題名	夏秋雨除けトマト栽培における高温・強日射に起因する裂果対策						
課題の概要	夏秋トマトにおける高温・強日射条件が関係するといわれている裂果の発生要因の洗い出しと、その対策技術を確立し、普及性のある技術開発により地域のトマト産地の活性化を図る。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性(効果)	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	有効性(目的以外の成果)	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(計画)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	成果の活用・発展性	2人	2人	1人	1人	0人	3.8
	総合評価	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1. 重要な研究課題であり、研究成果として、遮熱資材処理とホルモン処理の併用で効果が高まること等の普及に移しうる成果を上げており、高く評価する。</p> <p>2. 温暖化対策は深刻な課題であり、こうした多角的なアプローチが重要である。この研究の成果を広めることで、農家所得がかなり改善できると確信している。</p> <p>3. 本技術普及を積極的に進め、コストと作業負担を軽減するノウハウも考慮し、生産現場での早期実用化が望まれる。</p>						

番号	29-事後-8						
課題名	低コスト化を目指した促成ナスの炭酸ガス局所施用技術の開発						
課題の概要	液化炭酸ガスポンプを用いる生ガス施用方式は、装置が簡便でイニシャルコストは安いですが、ランニングコスト(ガス代)の高さが問題である。そこで、ランニングコストを低下できる生ガスの局所施用技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(効果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性(目的以外の成果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(計画)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	成果の活用・発展性	0人	3人	2人	1人	0人	3.3
	総合評価	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
助言・指摘事項等	<p>1. 本研究課題は現場ニーズに沿ったものであり、所得向上につながる技術開発として十分な成果が得られており、評価する。</p> <p>2. 早急に生産現場での実用化を進め、促成ナス農家の収益性向上に貢献することが望まれる。</p> <p>3. 炭酸ガス局所施用技術は効果が高いものであるが、経費増をどう抑えるか(低コスト化)が重要なこととなる。局所施用技術は農家目線の良い着眼点であり、農家の選択肢を増やすという意味でも意義がある。</p>						

番号	29-事後-9						
課題名	岡山県の気候に適したオリジナルリンドウの新品種育成による連続出荷体系の確立と栽培技術の改善						
課題の概要	10月以後に開花する晩生品種の育成を行うなど、開花期の異なるオリジナルリンドウの品種を育成することで連続出荷体系を確立し、岡山県のリンドウの生産額を西日本一の産地とする。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	有効性(効果)	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	有効性(目的以外の成果)	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(費用対効果)	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性(計画)	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	成果の活用・発展性	1人	3人	1人	1人	0人	3.7
	総合評価	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
助言・指摘事項等	<p>1. 生産者からの強い要望に基づく課題であり、期間内に品種が育成できたことは評価できる。また、当初目的以外の成果も得られており、今後につながる成果が得られたものと評価する。</p> <p>2. リンドウの販売促進、生産性向上の両面に寄与する技術開発として評価できる。</p> <p>3. 育種は長い年月かかるが、岡山県独自の育成が農家所得向上に果たす効果は大きいので、さらに継続研究をして頂きたい。</p>						

平成29年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番号	29-中間-1						
課題名	枝豆の優良系統の選抜と優良系統種子の安定生産						
課題の概要	黒大豆枝豆について、莢の茶しみ症の無いウイルス抵抗性や早生の品種を育成する。また、県選抜優良黒大豆系統「岡山系統1号」の安定生産のため、その原原種生産を行い、産地に供給する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	1人	5人	人	人	3.2
	〃（阻害要因）	人	3人	3人	人	人	3.5
	必要性	人	5人	1人	人	人	3.8
	有効性	人	4人	2人	人	人	3.7
	効率性・妥当性	人	3人	3人	人	人	3.5
	総合評価	人	6人	人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1. ブランディングを推進する課題であり、茶しみ症抵抗性品種および「岡山系統1号」より早生の品種の育成に対する要望は高く、成果も計画通り得られている。優良系統種子の供給のニーズも高く、公設試として実施すべき事業であり、継続的に研究を進めて欲しい。</p> <p>2. 水田利用として中山間地での農業振興に寄与すること大であり、農家所得向上に大きな改善が果たせられる。</p> <p>3. 岡山県産黒大豆のブランド化推進の大きな戦力になる。育成した新品種の現地での栽培を積極的に進めて欲しい。</p> <p>4. 枝豆の最需要期である夏場に供給できるような品種や栽培方法の開発にも期待したい。</p> <p>5. 新品種育成や優良系統種子の安定供給体制の確保が重要である。</p>						

番号	29-中間-2						
課題名	ブランディングに向けた枝豆の味分析と鮮度保持技術の開発						
課題の概要	黒大豆枝豆のブランド力強化のため、味の評価方法や特徴を明らかにすると共に、それに基づき鮮度保持技術の開発や、優良系統の味の評価を実施する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	2人	4人	人	人	3.3
	〃（阻害要因）	人	2人	4人	人	人	3.3
	必要性	人	5人	1人	人	人	3.8
	有効性	人	4人	2人	人	人	3.7
	効率性・妥当性	人	4人	2人	人	人	3.7
	総合評価	人	6人	人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1. 岡山県のブランディングを推進する課題であり、消費者ニーズと生産者ニーズに沿った課題である。岡山産黒大豆の高値販売、イメージアップにつながる技術として大いに期待できる。鮮度保持技術等の成果も得られており、課題の継続が適当である。</p> <p>2. 安価で安定的な鮮度保持技術の開発により、栽培面積の増加とブランド化が進むことを期待する。</p> <p>3. 収穫時間帯と出荷時間帯も考慮に入れた現場サイドでの実証等の試験も必要と考える。</p> <p>4. 食味成分分析や食味評価を目で見える形にすれば、現場で有効に指導できると考える。</p>						

番号	29-中間-3						
課題名	「くだもの王国おかやま」を彩るイチゴ新品種の育成						
課題の概要	「モモの香りがするイチゴ」等の新たな特性を持ったイチゴ品種を育成し、県独自品種の果物を周年供給することで「くだもの王国おかやま」のブランド推進を図る。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	2人	4人	人	人	3.3
	〃（阻害要因）	人	4人	2人	人	人	3.7
	必要性	1人	3人	2人	人	人	3.8
	有効性	1人	4人	1人	人	人	4.0
	効率性・妥当性	人	3人	3人	人	人	3.5
	総合評価	2人	4人	人	人	人	4.3
助言・指摘事項等	<p>1. 岡山県のブランディングを推進する課題であり、新たな冬春期の県内独自のイチゴ品種育成というニーズに沿った課題である。開花・収穫期が早く、耐病性もあり、収量性や食味評価の高い有望系統等を選抜しており、目標達成の可能性も高く、本課題は継続することが適当である。</p> <p>2. 本研究テーマである育種には時間はかかるが、農家のメリットを重視し、焦らず地道に進めてほしい。</p> <p>3. 岡山の果物としてはブランディング化のために、モモに似た香りのあるイチゴなど岡山のイメージ色の強い品種が必要であり、今後大いに期待される。本課題で他にはない魅力を備えた岡山発の県独自品種が育成され、県内産地のブランド化が進むことを期待する。</p>						

番号	29-中間-4						
課題名	「シャインマスカット」の秋冬期出荷技術の確立						
課題の概要	他県をリードする高品質な果実の秋冬期安定出荷を図るため、年末まで良好な果実品質を樹上で保持できる技術を開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	5人	1人	人	人	3.8
	〃（阻害要因）	1人	5人	1人	人	人	4.0
	必要性	1人	5人	1人	人	人	4.0
	有効性	1人	4人	1人	人	人	4.0
	効率性・妥当性	人	5人	1人	人	人	3.8
	総合評価	3人	3人	人	人	人	4.5
助言・指摘事項等	<p>1. 他県をリードする岡山県のブランディングに結びつく興味深い課題である。実証試験の実施ならびにマーケティング分野や普及部門との連携を強化して、延長して実施する価値のある研究課題と評価する。</p> <p>2. 本技術開発によって他産地との差別化によるブランド化が進むとともに、農家所得の向上にも大きく貢献することから、早急な技術確立を期待する。</p> <p>3. 黄色のブドウという発想がおもしろい。実需者などとも密に協議しながら、進めてほしい。</p> <p>4. 販売促進のためには、多角的なアプローチが大切であり、意義ある研究である。どの程度の需要が期待できるのかしつかり見極め、農家の負担を抑える形で普及できるかが鍵と思われる。</p> <p>5. 冷蔵以上の品質を備えることが大事であり、市場や消費する現地での評価実験も継続する必要がある。期待の大きい研究課題なので、慎重かつ大胆に進めて頂きたい。</p>						